

平成30年度 福井県立丹生高等学校 学校関係者評価書

- (問) ①スクールプランの重点目標や具体的な取り組み等が適切か。
②学校評価書の成果と課題が適切か。
③成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

評価者 平成30年度丹生高校スクールモニター 6名
朝日地区1名 織田地区1名 宮崎地区1名 越前地区1名、
前PTA会長1名 現PTA会長1名

【中高一貫教育】

- ・ 重点目標に「ふるさとに貢献できる資質と能力の育成」「町内4中学校に拡大し、充実を図る」の2つを掲げたことは適切である。
- ・ 保護者の80%以上が、中高一貫教育は人材育成に寄与していると感じている。今後も中高一貫教育が充実するようにしてほしい。
- ・ グループによる課題研究を推進していることは、協働して取り組む姿勢を育てるうえで有効である。今後も継続して取り組んでほしい。
- ・ 個人研究に向けて、学ぶ力を身につける講座を充実させることは大切である。
- ・ 地域研究をカリキュラムに導入する際には、官民協働で問題解決を図る体験となるように工夫してほしい。

【教育課程・学習指導】

- ・ 重点目標の「基礎学力の定着化」「学習習慣・規律の確立」に向けて取り組んだ結果目標には届かなかったが、昨年度よりも改善がみられたことは評価できる。
- ・ 授業を参観した際には、ICT機器を活用して授業が実施されていた。授業改善が教職員に浸透していると感じた。
- ・ 教材の教師間の共有がさらにすすむことで、業務の改善につながることを望む。
- ・ 漢字検定や英語検定などの各種検定を今以上に実施し、生徒の能力を伸ばす。

【生徒指導】

- ・ 保護者はネット社会への不安を持っている。学校が保護者に対しても情報モラルに関する注意喚起情報を定期的に発信するとさらに良い。
- ・ 今年度は1年生の部活動加入率が高かったことは評価できる。
- ・ 今後も文武両道を目指すとともに、生徒の自主性を育てる指導についてさらなる研究をお願いしたい。
- ・ 部活動の運営では教員の働き方改革もあるが、できるだけ競技力が低下しないような方策や指導方法を考えてほしい。また、文化部に地域の指導者を入れてはどうか。

【進路指導】

- ・ 生徒が主体的に進路情報を収集し、学校側も進路指導を充実させたことは良かった。
- ・ 多岐にわたる生徒の進路に対応することは大変ではあるが、今年度の反省を踏まえ、早い段階で進路講演会を開催し、生徒が自分の進路選択への意識を高めることを期待する。
- ・ 新大学入試制度に対応できるように、最新の情報をもっと集めてもらい、生徒や保護者に早めに知らせてほしい。

【保健管理・教育相談】

- ・ 昨年度に改訂された学校安全計画に基づき、校内施設や設備の点検を行い、大きな事故も起きなかったことは評価できる。
- ・ 保健室・相談室を利用する生徒が少なくなったとの報告があった。とくにいじめについては人権教育や個人面談を行い、いじめを生まない土壌作りを行っていることは評価できる。
- ・ 危機管理マニュアルは今年度に完成しなかったが、最近のいじめや虐待にも迅速に対応できるようなものに仕上げしてほしい。

【読書指導・情報管理】

- ・ 図書館の書架のレイアウトを工夫し、生徒にとって使いやすい環境になったのは評価できる。
- ・ 移動図書を活用し、生徒のリクエストにすぐに対応できるように工夫を求める。
- ・ ホームページでは本校の特化した良さを生徒や保護者、視聴者に発信できるようにしてほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・ 自己評価と学校関係者の方からのご意見やご指摘をもとに、次年度の目標・具体的取組を精査し教職員一丸となって目標達成をめざし、本校の教育活動の充実に取り組みたい。